

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501268		
法人名	筑後保健生活協同組合		
事業所名	虹の家きなっせ	(ユニット名	1ユニット)
所在地	福岡県大牟田市大字吉野1364-1		
自己評価作成日	平成25年7月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年9月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは住宅街の民家を増改築した造りの為、近隣の住宅とも溶け込んでいる。徒歩1分程度の場所にJR駅があり、さらに進んだ場所には公立高校がある。ホームに面した道路は通勤・通学路として利用されており、特に朝・夕は学生達の賑やかな声が聞こえてくる。日常生活の中で利用者と職員は共に育ち、利用者の現有能力を最大限に活かし、出来る事を支援している。地域交流の面では、絵画ボランティアやフラダンスサークルの訪問、地域の夏祭りへの参加等、地域に根差し利用者が地域の一員として暮らす支援に取り組んでいる。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

虹の家きなっせは職員の思いを大事にし、キャリアアップを応援する職場環境の中、職員は勤務年数も長く、笑顔が絶えず和気あいあいとした雰囲気を感じられる。利用開始当初は徘徊が見られた方も当ホームの尊厳を重んじる細やかなやかな対応により落ち着きを取り戻され穏やかに過ごされている。絵画ボランティア、フラダンスのサークルの訪問、地域の夏祭りの参加等の行事だけでなく、日常的に地域の方の訪問があり、利用者と親しく交流されている。地域の声を大事にし、地域に育まれて発展しているホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、誰もが目に付く場所に掲示して、朝礼時や職場会議の際などに確認し、考える機会を持ち、日々、実践できるようにしている。	「地域の中で、我が家で家族として暮らす」という理念を玄関の誰もが目に付く場所に掲示している。開設当初に職員の意見を基に作り、必要に応じて見直している。以前は毎日唱和していたが、現在は全職員に周知徹底しており、月に一度の学習会で一人ずつ言っている。職員は理念を理解し日々の業務の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の委員の方や、地域のボランティアの方たちなどに理解して頂くように、会報の配布や、散歩時の挨拶や会話、そして地域行事への参加など、つながりを大切にしている。	地域の夏祭りへの参加、会報の配布や散歩で挨拶を交わす等、地域との親交がある。地域のボランティアとの交流では、フラダンスの会が訪問して披露したり、月に1回、7年間、利用者と一緒に絵画を楽しんだりしている。近隣の方々が持って来る野菜が食卓を飾ることもあり、地域の一員としての交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、民生委員、ボランティアなど、地域の方々に、学習会などを通して、認知症への理解を拡げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を報告し、意見やアドバイスを頂いた事を、全職員で取り組み、サービスの向上に活かしている。	定期的開催され、民生委員2名、福祉委員2名、公民館長、家族会の会長、市の長寿社会推進課、包括支援センター職員、大牟田市の安心介護相談員と多数の方の参加を得て開催している。備蓄の中に水がないと指摘を受けすぐに改善する等、サービスの向上に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修や、会議に出席し、意見交換を行い、又、運営推進会議への出席や、あんしん介護相談員の受け入れなど、協力関係を築いている。	包括支援センターに成年後見人制度の相談に行きアドバイスを受ける等、行政との連携を取り運営に役立てている。月に一度大牟田市の安心介護相談員の受け入れをする等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場会議や朝礼時などにおいて、身体拘束について、共通認識を持ち、身体拘束をしない取り組みをしている。	年間計画に基づいて学習会を開催しており、休日の職員を勤務扱いで研修に全員参加している。参加できない場合は伝達研修が行われている。車いす利用者の方も移動時以外は、足置きから足を下して楽にする等、職員一人一人が日々の業務の中で身体拘束をしない意識を持ち実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会、学習会に出席し、学習した事を伝達研修で共有し、日々の業務の中でも連帯を持ち、身体的虐待だけではなく、心理的虐待にも充分注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議や研修への参加で学んでいる。又、入居者や家族に制度活用を提供している。後見人制度は、現在、数名の方が利用されている。	現在ホームで2名の方が成年後見人制度を利用している。必ず年1回学習会も行われ職員間でも周知されており、必要と思われる利用者の家族の方には管理者を通じて声掛けをしている。パンフレット等も玄関の見やすい場所に設置している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。契約時には、ケアに関する考え方や取り組み、又、退去を含めた事業所の対応可能な範囲についても説明をし、納得が得られるよう、努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションをはかり、意見や苦情を言って頂けるような雰囲気づくりに留意している。又、運営推進会議委員や市の相談員にも苦情、意見などを表せる機会を設け、出された意見は皆で話し合い、改善に努めている。	玄関に意見箱を設置している。家族が訪問した際には日々の状況を報告したりして話しやすい雰囲気づくりに努めている。運営推進会議の会議録も玄関の見やすい場所に設置し閲覧の声掛けを行っている。利用者家族が一堂に会する機会（一泊旅行）も年に1度、設けているが家族間での意見の交流の機会までには至っていない。	職員と家族間のコミュニケーションはしっかりとれているところなので、さらに、多くの意見等を得られるよう、利用者の家族同士が話し合える場を設けることについて、検討する機会を持つことを期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や、日常の業務の中、又、毎日の申し送り時、そして個人面談などで、個々の意見や要望を聞いている。又、日頃より、意見が出るような雰囲気作りをしている。	年齢・勤務年数に関係なく意見の言える雰囲気が出来ている。利用者の重度化に伴い職員の介助量が増えたため食事専任者の増員を提案して、聞き入れられる等、職員の意見が反映されている事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も、月数回、来所して、利用者や過ごしたり、家族会に出席するなど、職員の業務を把握する機会を作っている。又、職員の資格取得に向けた支援があり、それを活かせる、労働環境づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、資質を重視している。介護に対する思いや、希望を聞き、理念と照らし合わせて、適した人材かどうか判断している。又、経験や能力に応じて必要な研修が受けられるような体制づくりをしている。	30歳代から60歳代までの男女職員が勤務している。受験準備や研修への参加では、勤務日の調節をする等の支援体制がある。研修等の休みも取りやすく、入職して資格を取る職員が多い。資格手当も配慮されている。職員一人一人が持っている能力を発揮でき、意見も言いやすく働きやすい職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所主催の全体研修において外部講師を招いての教育があり、全職員出席の元、学習に取り組んでいる。	学習会が年間計画の中に位置づけられており、今年は3月に開催している。また、外部研修への参加も積極的に進めており、認知症の学習会等にも事業所から業務の一環として参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて、順次、外部研修の受講を促進している。又、資格取得に向けて、介護技術や、知識の向上に取り組んでる。研修後は伝達研修で、全員学習している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互訪問の実施や同業者との会議などで意見交換をし、学んだ事をサービスの質の向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族などから、十分な情報を得た上で、要望や不安、心配事などを知り、本人の思いに添った支援が出来るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めているものを理解し、それをどのように対応出来るか、話し合いを重ね、なるべく要望に添えるよう努めている。特に今までの苦労話などには、耳を傾けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や思いを確認し、支援できるサービスを可能な限り柔軟に対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや、不安、喜びを知る事に努め、「出来る事を楽しみながら、出来る範囲で！」を基に職員と共に、日常生活を共有し、信頼関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や電話にて、家族と話し合う機会を持ち、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などに依頼する等して、馴染みの人の面会や、場所への外出、電話や手紙など、継続的な交流が出来るよう支援している。	本人の思いが実現できるよう、日々の中で組み取った思いを家族に伝え、外出の際等になじみの場所へ行けるよう支援している。毎週月曜日に入院している夫の面会を行ってもらうという事例もあり、これまでの関係継続について支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席の位置、入浴時、家事手伝いなどの場面において、利用者同士の関係を把握し、特にトラブルにならないように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族会行事への参加や、運営推進会議のメンバーとしての出席などで、継続的に関わりを持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、情報収集を行い、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、家族と話し合いをし、本人主体の支援を第一に考えている	入浴時や夜間等、職員と二人きりになった時にゆっくり話をして思いを聞き取っている。言葉に表出できない方は、常日頃の声かけのなかで表情から思いをくみ取るよう努めている。言葉には出されないが、自宅への思いが強い方が居られ、家族と相談し頻回に連れて行って貰ったことがあり、本人の思いに添うよう支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りで、生活歴を知り、より多く、その人を知り、その人を理解するよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、日中の表情、会話などで心身の状態を把握するようにしている。また、日中は、台所の手伝いや、洗濯物干しや、たたみ等をして頂き、出来ることを、出来る人にして頂くなど、支援している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の思いや、要望を可能な限り、介護計画に反映し、また、職員及び医療機関などと連携を図り、モニタリングやカンファを行い、現状を常に把握し、ケアプランを作成している	利用開始時に利用者の意向を聞き取り全職員が課題分析をしてプランを作成し、ケアマネジャーがまとめ管理者が確認して家族の承認を得ている。更新時には全職員が順番にモニタリングを行い、利用者、家族の思い、医療担当の情報を聞き取ってプランに反映させている。状態の変化時は、その都度ケア会議を実施しプランの見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の日報や申し送り、カンファ等により、情報を共有し、実践や介護計画の見直しを行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に添って、外泊、外出、そして家族の宿泊の受け入れ等、その都度対応している。又、希望される医療機関や、通院介助、送迎等にも柔軟に対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵画教室やフラダンスなど、地域のサークルやボランティアの協力を得ている。又、地域の行事(夏祭りなど)への参加も、民生委員の協力などで行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関を受診できるように支援している。協力医療機関からの定期的な往診管理及び24時間医療連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診継続は可能だが、ホームで協力医の往診がある為、全利用者がかかりつけ医から協力医への変更を希望された。定期受診や他科受診は基本的に家族が付き添い、職員も同行して日常の状態を伝えている。緊急時は職員が付き添い、受診後、家族に情報を伝え状態の共有が出来ている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の情報や、気づきを報告し、異状時は、早急に受診できるよう連携をとっている。週に1回、訪問看護師に情報を提供している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	頻回に見舞いに行き、病状を把握している。又、本人が不穏なく治療できるように支援している。退院にむけての、担当医師、家族との話し合いに同席している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する同意書を交わしている。体調が変化する度に、連携する医療機関、家族と話し合いを持ち、方針を共有し、全職員が一丸となり、安心して最後が迎えられように取り組んでいる	ホームでは医療行為は行わない指針を掲げ、利用者や家族には利用開始時に説明している。家族から看取りの希望があり、家族の宿泊協力、医療関係者の連携を得て支援した経験がある。現在は、ターミナルの方が居られ何度も家族、医療関係者と話し合いをして、全職員が方針の確認や情報を共有しながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急マニュアルを作成し、職場会議等で学習している。又、夜勤帯での救急車要請や、蘇生術についても、日頃より学習している		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、防災マップや、ハザードマップを玄関の見やすい場所に掲示している。年2回の避難訓練を地域の方々と行っている	スプリンクラーを設置している。年2回夜間を想定し地域住民の協力を得て、全職員が利用者と一緒に通報、避難誘導、消火の訓練を行っている。12月には消防署立会いの下での訓練を予定している。2週間～1ヶ月分ほどの米や水、クッキー等の備蓄もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方に対する対応を心掛け、言葉使い等プライドを気付けないように配慮している。プライバシーに関する事は、個別に対応している	自由に出かけることができるように支援しており、職員が外出に気づいても、制止することなく付き添い、自尊心を損なわないような対応をしている。トイレ等の声かけは周りに気づかれないよう耳元でさり気なく行うよう心掛けている。記録物は部外者の訪問時に目に触れない様、奥の事務所の棚に管理してプライバシーの保護に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話をし、本人の思い等を表しやすい言葉かけを行い、自己決定を促している。意思表示が困難な方については、表情や日頃の様子などから本人の思いを感じとっている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムに配慮しながら、起床や就寝時間、入浴時間など個々のペースで行えるよう、柔軟に対応している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る服を一緒に選ぶなど、その人らしい身だしなみができるように支援している。又、定期的に美容室に依頼し、本人の希望をききながら、散髪して頂いている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備や後片付けなど、出来る範囲で、お手伝いをして頂き、家庭的な雰囲気の中で、一緒に食事をしている。メニューに関しても個々の好みを伺い、反映させている	利用者は一人一人の能力に合わせ、ジャガイモの皮むきやもやしの根切り、下膳、お盆拭き、茶碗拭き等を職員と一緒にしている。食事は利用者が食べやすい形態の物を準備し、職員も同じテーブルで一緒に食べ、和やかに楽しく団欒のひと時を過ごしている。利用者から「おはぎを食べたい」と要望があり、敬老の日に食べる予定にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて、キザミ食や軟食を提供している。食事毎に摂取量を記録し、状態の観察を行っている。又、日頃より水分摂取の声かけを行い、摂取状況を確認している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き誘導、夜間の義歯預かりなどで、口腔内の清潔を保って頂き、肺炎などの防止に努めている。又、歯科医院からの週1回の口腔ケア、月2回の往診を依頼している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表を作成し、時間毎にトイレ誘導をしている。また、トイレに行きたいなどのサインを把握し、プライドを傷つけないようトイレ誘導をしている。最小限のオムツ使用に努めている	声かけが必要な方には排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握して出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。声掛け誘導を行うことでパットの汚染が少なくなり交換の回数が減った事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物や消化の良いものを提供し、又、水分補給にも配慮している。体操、散歩、お手伝いなど個々に応じた支援をしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望を確認し、入浴の順番、組み合わせなどに配慮して、支援をおこなっている。車椅子の方には、職員2名で対応するなど、安全に配慮している。又、菖蒲湯など季節毎に入浴を楽しんで頂く工夫をしている	毎日入浴する方もあり、希望や必要に応じて時間に関係なく入浴やシャワー浴を行うことが出来るよう支援している。基本的には午前うちに4~5人の方が入っており、2日に1回の入浴としている。以前は入浴を拒否する方もみられたが、職員の声かけの工夫により現在は誰もが気持ちよく入浴するようになっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、身体を動かす事で、適度の疲労感を持って頂いたり、こまめな室温調節で、安眠の支援をしている。入浴後には、自室で休息される方もいらっしゃる		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて、内容などを把握している。服薬時は、毎回、飲み込まれることを確認している。処方薬が、変更になった際は、日々、状態観察を行い、体調の変化に気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする事をして頂き、その都度、感謝の言葉かけを行い、自信を持って頂くように支援している。また、歌、体操、散歩等、気分転換などの支援をしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望を家族に伝え、買物や食事などに出かけられるように協力をあおいでいる。又、散歩や買物など外出の機会をつくっている。地域の方が散歩に付添われることもある	体調や天候に合わせ、出来るだけ散歩に出かけるように支援している。民生委員の方から散歩に誘うこともあり、近所の家のきれいなお庭を見ることがお気に入りの散歩コースとなっている。年1回、家族会や運営推進会議参加者、ボランティアの方々と一緒にドライブや旅行を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人の方は、少額のお金を所持されている。散髪代などの支払いをご自分でされる方もいらっしゃる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、日常的に電話や手紙を出す機会をつくっている。特に、電話の際は、プライバシーに配慮して、自室にて会話をして頂くなど支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂くように、整理整頓に努めている。季節を感じる花や飾りを採り入れ、行事毎の写真も見やすい位置に飾っている	季節の花を飾り、静かな音楽が聞こえ穏やかで心地よい時間が流れている。テーブルとイスが中心のリビングの中に畳のスペースもあり、落ち着いて過ごせるよう工夫されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳に座って、テレビを観たり、ソファでくつろいだり、思い思いに過ごして頂くように居場所を作る工夫をしている。気候の良い時は、デッキでお茶や昼食を摂ることもある		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベッドや家具を配置し、危険なく、安心して過ごして頂くように支援している。又、仏壇を持ち来まれ、毎日、お茶を供える方もいらっしゃる	それぞれに馴染みの筆筒や鏡台等を持ち込み、本人が落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫されている。仏壇を持って来られている方もいる。家族からの手紙や絵手紙等を筆筒の引き出しに保管し何時でも見れるような配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけたり、「トイレ」の張り紙をしたりと「わかる」工夫をしている。又、個々の状態に合わせ、居室に手摺りを設置し、安全にも配慮している		